

2013年度活動計画案

(1) 一般財団法人への移行にともなう組織と業務の改革

①法人移行後の手続き

- *定款に沿って適正な組織運営を行い、一般財団法人としての体制基盤を固める。
- *さらなる制度的整備および内規整備に努める。
- *ホームページやメーリングリストを活用して、学会に関する情報の公開をより一層進めると同時に、会員に関する個人情報のより厳格な管理体制を確立する。

(2) 大会、研究会の開催

研究担当理事を中心に、研究企画委員会での検討を踏まえ、以下の要領で開催する。

- ①全国大会〔開催日：6月15(土)・16日(日)、主催校：立教大学池袋キャンパス〕
- ②東日本大会〔開催日：10月12日(土)、主催校：早稲田大学〕
- ③西日本大会〔開催日：11月9日(土)、主催校：大阪市立大学〕
- *いずれの大会においても、ホームページを活用し、若手会員の自由論題における報告の機会の拡充と、その成果の会員への還元を図る。
- *大会開催時に託児室を設置し、小さな子どもを持つ会員が参加しやすいようにする。
- *東北、北陸、中国・四国、九州地区の会員との研究交流の活性化を図る。

(3) 機関誌『アジア研究』の発行

- *『アジア研究』は年4回、期日通りの発行に努める。また、書評欄をより充実したものにするよう努める。

(4) その他の研究活動・研究普及活動

- *内閣府、大学、他の地域研究関連学会、グローバルCOEアジア関連事業、アジア研究に関する拠点事業などとの連携を強化し、共催のかたちによる事業推進の可能性も検討する。
- *定例研究会を通じて研究交流をより一層活性化させる。

(5) 会員満足度の向上を目指す工夫

- *ニューズレターとホームページを活用し、会員の情報へのaccessibility向上を目指す。具体的には、ホームページの改善(学会誌バックナンバーの閲覧環境の改善、英語版ホームページの充実など)を図り、会員との交流に努める。
- *2013年度における学会設立60周年記念事業の企画を検討する。また、当該記念事業の一環として、学会賞の衣替え、出版助成などを検討する。

(6) 学会活動における国際化・グローバル化への対応と調整

- * 会員の業績、学会の活動の英文化をより一層進める。
- * 全国大会での「国際シンポジウム・セッション」を継続し、さらに充実させる。
- * ドイツ・アジア学会 (Deutsche Gesellschaft für Asienkunde) との国際交流企画、日独ベルリンセンター主催の日独シンポジウム、および韓国・アジア経済共同体フォーラム (Asia Economic Community Forum) へのパネル参加など、海外の研究機関や学会との交流を積極的に検討し、本学会のポジションを明確にしながら、ネットワークを広げていく。

(7) 財務体制の改善

- * 一般財団法人の枠組みに沿った適正な財務処理の体制を引き続きとる。
- * 財務状況は会費収入の減少傾向がみられるため、会員の増加と会費の徴収に努める。同時に、会費収入以外の財源の確保も模索する。

以上